
空色と銀色の魔法使い

三月やよい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空色と銀色の魔法使い

【Nコード】

N0831B

【作者名】

三月やよい

【あらすじ】

「色小説」ぽわぽわ草って知ってる？見つけて食べると何でも願いがかなうすごい魔法を持っているんだって！

（前書き）

これは「色小説」です。（色っぽい話ってワケじゃないですよ）
共同制作に参加してくださる先生方のすばらしい作品は
「色小説」で検索すると探すことができます。

ぼわぼわ草って知ってる？

オブスクの丘のどこかに生えている・・・えつとねえ
たんぽぽみたいな草なの。

空色の綿毛がぼわぼわ風に揺れてすごくキレイなんだって。

しかもね、キレイなだけじゃないの！

すごい魔力があるんだって！！

食べると一つだけ願い事がかなうんだって。

どんなことでも叶うのかなあ？

わたしは今日もお気に入りの桃色ローブを着て
大好きなクウを遊びに誘う。

クルーセントだからクウ。

銀色の細い髪がすごくきれいなの！

ぼわぼわ草の綿毛もきつとクウの髪みたいに
ふわふわきれいなんだろうなあ

私はクウを見ながらうつとりと考えちゃった。

「クウ、ぼわぼわ草探しに行こう！」

飴色のローブを着ているクウの手をとってオブスクの丘へ向かう。

クウのお母さんが持たせてくれたお弁当の入ったバスケットは
金色のリボンがついていて風にひらひら揺れている。

（ねえローラは何をお願いするの？）

クウはお口から声を出すことができないんだって
でもね、考えてることが・・・えつとてればしー？

とかそんなやつで伝えることができるみたい。

わたしのことをローラって呼ぶのはクウだけ。

ローレイだからローラ。

みんなはレイとかローレとかライとか呼ぶの。

ローラって呼んでいいのはクウだけ。

わたしの秘密の決まりごと。

「それはね・・・内緒！」

内緒ないしょ。

だって願い事聞いたらクウ怒って一緒に探してくれないかもしれないかもしれないもん。

オブスクの丘には黄緑色の芝生の上にオレンジ色、紫色、山吹色・
・

色々なお花が咲いている。

私とクウはくたくたになるまで水色綿毛を捜したけれどぜんぜん見つからない！

もう動けない！疲れた！と

クウのお母さんが持たせてくれたターキーのサンドイッチを食べながら

私たちは作戦会議！

「ぼわぼわ草ってどこにあるのかなあ？

一緒に同じ場所探すのじゃなくて手分けする？」

（う・・・ん。そのほうが効率は良いかもしれないけれど

ローラ一人で足滑らせたりしたら大変だよ？

二人で一緒に探そう）

効率、とか難しい単語使っちゃうクウはすごく物知り。

私はいつも色々教えてもらうの。

お口の周りを群青色のハンカチでぬぐってもらってわたしは聞いたの。

「ねえクウ。

ぼわぼわ草の魔法ってすごく強いかなあ？」

（・・・・・・

どうだろうね。見つけてみないと判らないね）

クウはちよつと驚いた顔をした後、いつもの穏やかな顔になって

笑顔をみせてくれる。

クウ可愛い！！

よし！

そんなクウと一緒にがんばれる！

でもごめんね、クウ。

わたしはクウに願い事を秘密にしてる。

それなのに一緒にぼわぼわ草を探してくれるクウは優しい。

お指が土で茶色になってお気に入りローブが泥んこになっちゃっても気にせず探す。（あとでママには叱られちゃうかも）

緑色の花びらを珍しいなあと指でつついていたら

（ローラ！あつたよ！あれが多分ぼわぼわ草だよ！！）

クウが指差したところは切り立った崖の壁。

そこはクウよりちよつと高い私の身長よりもずっと高いところ。

そんなところに私の手のひらくらいの大きさの水色綿毛が

ぼわぼわ浮いている。

「可愛いお花だね」

（そうだね。でも高いところにあるね。どうしようかね）

「うーん・・・」

わたしは一生懸命ジャンプしたの

えいっえいっつて

でも全然届かない。

えいっえいっ

足が痛くなるまでジャンプしたけれどかすりもしない！

もう泣きたくなってきたら横にいたはずのクウがいなくなっちゃってる！！

大変！クウが迷子になっちゃった！！

「クウーっつ」

大きな声で叫んだらクウは崖沿いからおおきな石を転がして近づいてきたの

（ローラ。これに乗れば取れるんじゃないかな？）

クウってば頭イイ！！

わたしはクウが転がしてきてくれた石に乗って見事ばわ草を取ったの！

根元をお指で切るとき緊張して落つことしちゃいそうになっちゃったあぶないあぶない

（きつとコレがばわ草だよ。ローラの願いを叶えてもらおう）クウも満足そう。嬉しいっつ。

じゃあ願い事をする番ね。

「うんっ！！はい、クウ。これ食べて？」

そして『声がでするように』ってお願いして」

（……僕のか？）

「……うん……ごめんなさい……」

（ぼくのためにこんな泥んこになったのか？）

なんかいつもとは違うクウのテレパシー！

もしかして怒ってる？

大変！ちゃんと謝らなくちゃ！！

悪いことしたらちゃんとごめんなさいしなくちゃ！

「ちがうの！私のね、わがままなの。」

あのね、怒るよね？

ごめんね。

クウってね、いつも心に聞こえてくる声がねすごくキレイなの。

だからね、お耳から聞こえる声もきつとキレイなんだろうなって

聞きたいの、すごく。

わがままなの。

ごめんなさい……」

恥ずかしい！

大好きなクウに軽蔑されちゃう！！

わたしは今お顔がきつと赤色になっちゃってる！

もうお耳まであついもん。

でもね優しいクウは

（わがままなんかじゃないよ。

ありがとう。

大好きだよ）

ってわたしの頭をなでなでしてくれたの。

（おうちに帰って一緒にぼわぼわ草食べよう）

そういつてわたしの手を取って歩き出した。

綿毛をちよっぴりむしって二人で味見してみたら

何か甘くてふわふわして・・・水色の綿飴みたい。

ぼわぼわ草を見つけると願いが叶うってというのは

それだけ珍しいお花だから見つけることができるくらい幸運だったら

きっとイイコトあだろうってコトみたい。

帰り道でクウは手をつなぎながら教えてくれたの。

夕焼けで朱色に照らされたクウの横顔は何だかちょっとお兄さん。

私よりも1つ年下なのに心はきっとお兄さん。

でもね、ぼわぼわ草の魔法ってやっぱりあるなあ

クウ手作りのぼわぼわ草入り特製オムレツを食べると

お腹からほわ～って暖かくなって

すごく幸せになったの

これは黄色いオムレツ色の幸せ

きつとね、ぼわぼわ草よりもクウの方がずっとずっと魔法使い

銀色と水色と黄色の魔法を使うわたしだけの大好きな魔法使い

（後書き）

絵本っぽい世界観をイメージしてみました。
感想いただけたら嬉しいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0831b/>

空色と銀色の魔法使い

2010年11月1日08時30分発行